

研究内容

1、障がい別研究

(1) 知的障がい児教育部門

研究主題 「一人ひとりの教育的ニーズに応じ、よさを生かした自立活動の指導の工夫」

研究内容 主体的な取り組みとなる活動や興味・関心がわく学習環境の工夫と実践

- ア．日常の行動観察や心理検査等の活用による的確な実態把握
- イ．個別の指導計画、個別の教育支援計画の活用による課題設定及び評価
- ウ．身体の動き（からだづくり、体力づくり等）に関わる実践交流
- エ．コミュニケーション能力の育成に関わる実践交流

研究方法 ア．研究授業の実践（公開授業、事後研）

- イ．各学校の実践のレポート交流
- ウ．学校・施設などの視察
- エ．講演会、学習会などの開催

(2) 情緒障がい児教育部門

研究主題 「個別のニーズに応じ生きる力を育てる自立活動のあり方」

～的確な実態把握に基づく支援方法・授業作りの工夫～

研究内容 ア．個別のニーズに応じた支援方法、生きる力を育てる自立活動の授業作りの研究
（公開授業、教材教具の開発と活用、実践交流）

- イ．各種検査の活用法
- ウ．発達障がいに関わる特別支援教育について

研究方法 ア．研究授業の実践 ・公開授業 ・事後研

- イ．研究実践交流 ・実践レポート交流（時間配分やグルーピングの工夫）
- ウ．理論・実技研修会
・今日的課題に即した講演会や講習会、演習等の実施
（的確な実態把握、授業づくり、社会自立に向けたソーシャルスキルの向上、
各種検査の実施や活用方法、遊びの指導、教材教具作りなど）

(3) 言語障がい児教育部門

研究主題 「わかり合いを大切にした指導・支援のあり方を考える」

～一人一人のニーズに応じた教育的支援はどうあるべきか～

研究目的 一人一人のニーズに応じた教育的支援を行うためには、わかり合いを大切にしながら言語障がい児の適切な理解と個別の指導計画の作成、それに基づく全体的な指導・支援が望まれている。そのためには、子どもの適切な理解に基づいた個別の指導・支援計画はどうあるべきか、各関係者と連携してどのように作成し、指導・支援を行うかを、教育的診断過程の流れに沿って研究する。また、言語障がい児のための望ましい指導・支援体制のあり方について研究する。

- 研究内容 ア．教育的診断に基づく指導・支援のあり方の研究
イ．個別の指導計画の作成・実践・評価の研究
ウ．各関係者との連携
エ．言語障がい児のための望ましい指導・支援体制のあり方の研究

(4) 肢体不自由児教育部門

研究主題 「体験的な活動を通して、たくましく生きる力を育てる指導の工夫」

- 研究内容 ア．体験的な活動を組み入れる行事、学習の工夫
イ．障がいの程度や特性を考慮した自立の支援の方法

研究方法 ア．個別の教育支援計画をもとに、日常の教育実践を交流する。
イ．行事や交流学习、自立活動の場面での担任の工夫を交流する。
ウ．学校以外の機関との連携の工夫を交流する。

(5) 病虚弱児・弱視児教育部門(会員数により設置する)

2、共通研究

- (1) 研究主題 「個別の教育的ニーズに応じた指導内容及び指導方法のあり方」
(2) 研究内容 ア．個々の特性の把握と、適切な支援のあり方について
イ．子どもが自主的・主体的に活動できる場の設定や関わり方の工夫
(3) 研究方法 ア．施設見学・講演会・演習などの研修会を年間2回実施する

3、教育課程委員会の研究

- (1) 知的障がい児教育の教育課程を編成する。
(2) 知的障がい児教育部門より委員長を含む6名の委員を選出し、教育課程の編成にあたる。

4、小委員会の活動

必要に応じて研究活動を行う。

5、その他の活動

新入会員研修会の実施

初めて石狩管内で障がい児教育を担当する教師(新採用者・他管内からの転入者・通常学級からの異動者など)を対象に新入会員研修会を実施する。具体的な内容については、部会役員と部門代表者で構成する推進委員会で企画し、実施する。

